

学科	理容科	担当教員	宗像				
科目名	関係法規・制度	学 年	2年	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	国家試験に合格することを目標に、今まで習得した知識をもとに得点できるよう、実際の国家試験や独自問題を用いて演習を重ねる。苦手意識の高い分野については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	関連法規（生衛法）【到達目標】生衛法が何を規定しており、どのような制度が用意されているかを説明できる。						
2	関連法規（労働法・日本政策金融公庫法）【到達目標】理容師が労働者としてどのように法律に守られているか、また経営者としてどのように労働者を使用するかのイメージをもつことができる。資金調達の際、日本政策金融公庫にはどのような制度が用意されているか説明できる。						
3	関連法規（顧客に関する法律）【到達目標】理容師・経営者として関わる顧客に関してどのような法律が用意されているか説明できる。						
4	問題演習1【到達目標】理容師免許の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。						
5	問題演習2【到達目標】理容所開設の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。						
6	問題演習3【到達目標】行政処分・罰則の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。						
7	問題演習4【到達目標】総合問題・横断的な問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。						
	学科試験						
到達目標	国家試験合格に向けて、理容師法の正確な知識を取得できているかを自ら確認しつつ、弱点を把握し、補強する。足りない知識についてはその都度見返し、自分の知識としていく。知識を用いて的確に問題の意図を掴み、正答する。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	教科書（関係法規・制度 公益社団法人日本理容理容教育センター）						

学科	理容科	担当教員	岩崎				
科目名	衛生管理（公衆衛生・環境衛生）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15		
教育目標・ねらい	演習問題を中心に当該科目をより深く理解し、公衆衛生・環境衛生の向上に寄与する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」公衆衛生・環境衛生を極める。 小テスト実施						
2	演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」公衆衛生・環境衛生を極める。 小テスト実施・前回の小テスト解説						
3	演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」公衆衛生・環境衛生を極める。 小テスト実施・前回の小テスト解説						
4	演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」公衆衛生・環境衛生を極める。 小テスト実施・前回の小テスト解説						
5	演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」公衆衛生・環境衛生を極める。 小テスト実施・前回の小テスト解説						
6	演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」公衆衛生・環境衛生を極める。 小テスト実施・前回の小テスト解説						
7	演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」公衆衛生・環境衛生を極める。 小テスト実施・前回の小テスト解説						
	学科試験						
到達目標	資格の取得と共に発生する公衆衛生の維持向上に寄与することができるようになる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書 小テストと演習問題を前もって提出						

学科	理容科	担当教員	岩崎				
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15		
教育目標・ねらい	演習問題を中心により深く理解し、人に教えられるまでになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」感染症各論を極める。			小テスト実施			
2	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」感染症各論を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
3	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」感染症各論を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
4	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」感染症各論を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
5	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」感染症各論を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
6	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」感染症各論を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
7	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」感染症各論を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
	学科試験						
到達目標	仕事上、自分自身を感染症から守り、人に説明もできるようになる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書 小テストと演習問題をそれぞれに前もって提出						

学科	理容科	担当教員	岩崎				
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	演習問題を中心により深く理解し、適切な消毒法を選択できまたその理由も人に教えられるまでになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」消毒法を極める。			小テスト実施			
2	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」消毒法を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
3	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」消毒法を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
4	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」消毒法を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
5	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」消毒法を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
6	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」消毒法を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
7	総復習・演習問題約20題を解き、解説により周辺をより深く理解する。 「到達目標」消毒法を極める。			小テスト実施・前回の小テスト解説			
	学科試験						
到達目標	消毒の様々な条件を鑑みて、適切な消毒法を選択できるようになる。また濃度計算も得意になる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書 小テストと演習問題をそれぞれに前もって提出						

学科	理容科	担当教員	斎藤				
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	最終的には国家試験問題を全問正解することが目標であるが、それだけではなく、人体の構造を学ぶことにより理容人として、人間の美と健康に携わる職業であることの自覚を持ってもらう。また、自分の身体の健康や接客時のお客様との会話の中でも常識として理解を深めていただきたい。						
授業回	学習内容			備 考			
1	血液の循環経路 心臓と血管のはたらき 【到達目標】 心臓の構造や血管の構造、循環のしくみやリンパ管系を覚える。						
2	第7章 呼吸器系 【到達目標】 鼻腔～肺の呼吸器の流れや呼吸期間の構造、呼吸法式を覚える。						
3	第8章 消化器系/消化器系のあらまし 【到達目標】 口腔～肛門までの流れや消化器官の構造を覚える。						
4	消化管のはたらき 【到達目標】 消化管のはたらきやの消化管の運動、消化のはたらきを覚える。						
5	まとめ						
6	国家試験対策 1						
7	国家試験対策 2						
	学科試験						
到達目標	国家試験に合格できる内容を学習						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書						

学科	理容科	担当教員	古莊				
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	皮膚・毛髪の構造や役割などについて、理容業務（パーマ、ヘアカラー、シェービングなど）において支障が出ない様、正しく理解する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	皮膚の構造① 表皮について。 表皮の構成成分、構造、表皮にある皮膚付属器官についてを理解する。			プロジェクト使用 (基本的に全回)			
2	皮膚の構造② 真皮について 真皮の構成成分、構造、真皮にある皮膚付属器官についてを理解する。						
3	皮膚の構造③ 皮下組織について 皮下組織の構成成分、構造、皮下組織にある皮膚付属器官などの理解。 皮下脂肪と人体の循環器の関連性についての理解。			第1章 小テスト実施			
4	皮膚付属器官の構造 毛について 毛髪についての構造、構成成分、性質などの理解。			小テスト実施			
5	皮膚付属器官の構造 皮膚の神経について 皮膚と皮膚付属機関の生理機能について 汗腺、皮膚神経、皮膚反射などについて			小テスト実施			
6	皮膚と皮膚付属器官の生理機能 皮膚の保護作用（機械的外力、紫外線、化学的刺激、細菌、微生物など）			小テスト実施			
7	皮膚と皮膚付属機関の保健 皮膚と体調との関連性について。			小テスト実施			
	学科試験						
到達目標	皮膚や付属器官について一通り理解する事で、サロンでのお客様の状況に応じた対応、施術が出来ることを目標とする。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>・配布プリント</li> </ul>						

学科	理容科	担当教員	古莊				
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	皮膚・毛髪の構造や役割などについて、理容業務（パーマ、ヘアカラー、シェービングなど）において支障が出ない様、正しく理解する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	皮膚と皮膚付属器官の保健 皮膚・付属器官とホルモン			小テスト実施			
2	皮膚と皮膚付属器官の保健 皮膚の保護と手入れ（ひげ剃り後、フケ症、汗、紫外線など）			小テスト実施			
3	皮膚付属器官の構造 皮膚付属器官の生理機能 ⇒爪について 皮膚付属器官の保健			小テスト実施			
4	皮膚と皮膚付属器官の疾患 皮膚疾患 総論 内因による疾患、外因による疾患			小テスト実施			
5	皮膚と皮膚付属器官の疾患 外因による疾患、毛の疾患、皮膚の腫瘍			小テスト実施			
6	国家試験対策①			小テスト実施			
7	国家試験対策②			小テスト実施			
	学科試験						
到達目標	皮膚や付属器官について一通り理解する事で、サロンでのお客様の状況に応じた対応、施術が出来ることを目標とする。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>配布プリント</li> </ul>						

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	施術で使用する方法だけでなく、成分や関連法規を含めた香粧品の構成を理解する。 皮膚や毛髪の構造を理解する事に作用の内容を発展的に理解する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	①香粧品概論 ②法律や規制 【到達目標】香粧品の一般的な概念と、香粧品に関わる法律について説明できるようになる。				
2	①香粧品の取り扱い ②安全性など 【到達目標】香粧品の取り扱い方法や安全性の基準について説明できるようになる。				
3	①香粧品の種類、性状 ②皮膚 ③頭皮 【到達目標】香粧品の剤型や性状の特性、皮膚や頭皮の構造を説明できるようになる。				
4	①水溶性原料 ②油性原料 【到達目標】香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる。				
5	①界面活性剤 ②乳化について（実験と連動して説明）③高分子化合物 【到達目標】香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる。				
6	前期のまとめ：香粧品の法律・原料・剤型の確認 【到達目標】香粧品の使用目的や用途により原料から剤型の特徴を説明できるようになる。				
7	①色材 ②香料 【到達目標】香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる。				
	学科試験				
8	①その他の配合成分 ②ネイル・まつ毛エクステンション用 【到達目標】香粧品に用いられる製品安定化剤について説明できるようになる。				
9	①皮膚洗浄用香粧品 ②化粧水 【到達目標】皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できるようになる。				
10	③クリーム ④その他の基礎香粧品 【到達目標】皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できるようになる。				
11	①メイクアップ ②芳香製品 【到達目標】各種香粧品の特徴を理解を深め説明できるようにする。				
12	①頭皮・毛髪用 【到達目標】染毛剤、パーマ剤を含む頭毛用香粧品の成分、法律や注意事項を説明できるようにする。				

13	まとめ 【到達目標】 様々な種類の香粧品についての知識を増やし、説明できるようにする。	
14	まとめ 【到達目標】 理容師として必要な香粧品に関する知識の確認を行い、正しく説明できるようにする。	
	学科試験	
到達目標	①香粧品に関する法律について知ってうえでの施術を可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。	
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験する事ができない。	
テキスト	・教科書（香粧品化学） ・まとめと概要のプリント（毎授業時に配布）	

学科	理容科	担当教員	仲矢				
科目名	文化論	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14		
教育目標・ ねらい	理容師・美容師の仕事の中でお客様とのコンセンサスを得たうえで、技術を提供することは大変重要である。この文化論にはコンセンサスを得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在していることから、基本を知り、経験の中で理解を含めさせれるようにしていく。						
授業回	学習内容			備 考			
1回目	礼装の種類/和装の礼装・洋装の礼装について						
2回目	ファッショソ文化史西洋編/古代エジプト～16世紀まで						
3回目	17世紀～19世紀までのファッショソ文化について						
	学科試験						
4回目	1910年代以降のファッショソ文化について						
5回目	グループワークによる国家試験を想定した問題作成						
6回目	グループワークにて作成した問題集を模擬試験及び解答						
	学科試験						
到達目標	自分たちで国家試験を想定して問題を作成することで国家試験にむけ理解を深める						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	理容文化論（日本理容美容教育センター指定教科書）						

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	文化論 (ファッショント学/理容色彩学)	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16		
教育目標・ ねらい	ファッショントの基礎、歴史を学ぶことにより、理容美容とファッショントがどう関係してお り、どうのよう活かせるのかを学ぶ。						
授業回	学習内容			備 考			
1	アパレル企業の実態 →各セクションの役割や自信のリアルな仕事内容を紹介						
2	ブランドの構築の仕方 →どうやってブランドを構築していくのか						
3	コーディネイトの基本 →色の合わせ方、シルエットの考え方						
4	ファッショント史 →2023年に学んだカラー史を元に少し掘り下げたファッショントを学ぶ						
5	トレンドを学ぶ →2024年AWの色/キーワード 注目の企業/ブランドを紹介						
6・7	トレンドを踏まえて作品づくり						
8	総復習						
到達目標	美翔祭に向けコーディネイトを自ずから提案できる。						
評価方法	授業態度、作品提出、リアクションペーパーにより評価。なお、所定授業時数（全体の 2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	各授業枚にテキスト用意。プロジェクター使用。						

学科	理容科	担当教員	畠中				
科目名	運営管理	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	<p>「運営管理」テキストを活用し、経営基本と「財務・税金の知識」の習得を行う。</p> <p>【到達目標】 ・貸借対照表と損益計算書の見方が分かるようになる。また、税の種類や納税の基礎知識を説明できるようになる。</p>						
2	<p>「運営管理」テキストを活用し、「労働基準法」「労働安全衛生法」の理解</p> <p>【到達目標】労働基準法や給与について、労働安全衛生法などの概要を説明できるようになる。</p>						
3	<p>テキストを活用し、「社会保険知識」の習得（前編）</p> <p>【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。</p>						
4	<p>テキストを活用し、「社会保険知識」の習得（後編）</p> <p>【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。</p>						
5	<p>「運営管理」テキストを活用し、と国家資格学科試験に対応できるための能力を養いながら、1年生のグループワークで実行した「価値の知識」の習得を目指す。【到達目標】としては、理容業のサービスの価値の中身を説明できるようになる。</p>						
6	<p>「運営管理」テキストを活用し、「マーケティングの視点」の習得</p> <p>【到達目標】 ・前の授業の「価値」の伝える方法論や、実行する人の管理とはなにか、を説明できるようになる。</p>						
7	<p>テキストを活用し、財務、税務、労基、社保の復習と全体の小テスト</p> <p>【到達目標】 ・サロン運営はどのようにするのかの概略を説明できるようになる。</p>						
	学科試験						
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験すると同時に、国家試験科目「運営管理」に対応するものとする。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、その他、授業内での班ごとの指導時にやりとりした内容によって評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	運営管理（日本理容美容教育センター指定教科書） 当方が準備するプリントをコピーして頂いて、配布して使用						

学科	理容科	担当教員	古莊・中山		
科目名	理容技術理論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようになる。				
授業時間数	学習内容			備 考	
1~4	個性心理学	個性心理学を通じて個性分析をし自分自身の特徴を知る。また様々なタイプの個性を理解することで、理容師として必要な多様性を深めらる。 <b>【到達目標】</b> 自分自身の個人分析について説明することができる。			
5・6	パーマネントセット	(1) パーマネントウェービング (2) コールド二浴式パーマネントウェーブの一例 (3) アイアニング <b>【到達目標】</b> パーマネントを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明できる			
7・8	ヘアカラーリング	(1) ヘアカラーリング技術のプロセス (2) ヘアカラーリングの一例 <b>【到達目標】</b> ヘアカラーリングを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明できる			
9~12	シェービング	(1) メンズフェイスシェービング (2) メンズネックシェービング (3) グルーミング (4) レディースシェービング <b>【到達目標】</b> シェービングを安全に正しく施術できるために必要な理論及び技法を説明できる			
13・14	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア (3) ハンドケア <b>【到達目標】</b> スキンケア、フェイシャルケア、ハンドケアの理論及び技法を説明することができる			
15~17	理容用具	シザース、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー <b>【到達目標】</b> 理容用具を安全に正しく使用していく為に必要な知識と取扱い方について説明できる			

授業時間数	学習内容		備 考
18~20	ヘアカッティング	スタンダードヘアのスタイル別カットシステム 【到達目標】スタンダードヘアのスタイル別の特徴を説明することができる	
21~29	国家試験対策授業	理容技術理論1・理容技術理論2 【到達目標】理容技術理論にある各章の重要なポイントを説明することができる	
30	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。		
テキスト	「理容技術理論1・2」（日本理容美容教育センター指定教科書）		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	古莊・中山		
科目名	理容実習	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	360
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1~16	メンズカット	3つのヘアスタイル（マッシュウルフ、アップバング、クロップ）を通じて、ヘアデザインの幅を広げる  【到達目標】3つのヘアスタイルを通じてヘアスタイルのデザイン別に合わせたカッティング理論、技術を習得する		32時間	
17~24	ワインディング	パーマネントウェーブ技術に必要な理論ならびにワインディング技術（上巻き、下巻き）を習得する  【到達目標】35分間でCライン巻きをすることができる		16	
25~40	シェービング	シェービング理論と技術の習得及びシェービングの事前事後のお肌のケアについての理論と技術の習得  【到達目標】お客様に快感を与えられ、シェービング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客をすることができる		32	
41~120	資格試験課題 (ミディアムカット)	国家試験合格レベルのミディアムカットに必要なヘアカッティング理論とスタンダードカット技術(基礎刈り、仕上げ刈り、セニングカット)を実習班で学び合う  【到達目標】ミディアムカット20分間、セニングカット5分間で安全にヘアカッティングができる		160	
121~180	コース選択 (スタイリスト)	ヘアデザインに必要な応用する力と想像力を高めるために必要な基礎的知識、技能を修得する  【到達目標】ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにできる		120	
	コース選択 (リラクゼーション)	女性に施術することを目的としたシエステ(=シェービングエステ)及びネイル、メイクの基礎的知識、技能を修得する  【到達目標】肌質やスキントラブルを分析し、シエステを駆使しながらモデルの肌を美しくすることができます。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータルビューティーまで発展させた立案・提案をすることができる			

到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	理容美術（デッサン）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	14		
教育目標・ねらい	頭部の形、細部の形を捉える						
授業回	学習内容			備 考			
1	授業の狙いについての説明、次回以降の説明、ウォーミングアップとしてのドローイング(頭部の解剖的構造の捉え方、書き方)			任意のデッサン用具を用意すること（色もつけて良い）			
2・3	任意の写真をもとに頭部のデッサン 1日目			同上			
4・5	任意の写真をもとに頭部のデッサン 2日目						
6・7	任意の写真をもとに頭部のデッサン 3日目 + 講評						
到達目標	頭部の構造の理解と大きな構造に伴った細部の表現						
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	必要に応じて配布						

学科	理容科	担当教員	古莊				
科目名	理容美術（理容フォト）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	16		
教育目標・ねらい	通常のカメラでは撮影が難しいヘア、メイク、ネイルなどの撮影術を学び、自身が作成した作品を残せるようにする。						
授業回	学習内容			備 考			
1	カメラ基礎① なぜスマートフォンではヘアスタイル、メイク、ネイルの撮影が難しいのか 一眼レフカメラ基礎（取り扱い方、構え方）						
2	カメラ基礎② カメラの機能を理解する（フォーカス、シャッタースピード、絞り）						
3	カメラ基礎③ カメラの機能を理解する（ISO感度、色調）						
4	撮影実習① 撮影基礎 人間モデルの基本的な撮影方法とカメラの設定						
5	撮影実習② ストロボを使用した人物撮影 基本的なストロボ設営パターンで、モデルの全身撮影			作品提出			
6	撮影実習③ ストロボを使用した人物撮影 アップでの撮影に特化したストロボ設営パターンで、モデルの顔のアップを撮影			作品提出			
7	撮影実習④ 人物撮影 美翔祭モデルを使用した、モデルのAfter撮影。						
8	撮影実習④ 人物撮影 美翔祭モデルを使用した、モデルのAfter撮影。			作品提出			
到達目標	作品作りと撮影を行う事で、卒業後も実際にサロンで活用できる事を目標とする。						
評価方法	授業態度、作品提出により評価。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	オリジナルテキスト配布						

学科	理容科	担当教員	杉崎				
科目名	表現技術（話し方論）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必須	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	どんな職業に就いても、社会人として必要なビジネス知識やマナーをワークブックにまとめながら覚える。学ぶ順：言葉づかい→電話応対						
授業回	学習内容			備 考			
1	社会人としての心構え。話し方、聞き方のポイント。 【到達目標】言葉づかいで人間関係が変わるという意味を知る。			ワークブック 小 テスト①			
2	好感のもたれる話し方（丁寧語、尊敬語、謙譲語の復習） 【到達目標】敬語の文法を再確認し、日常会話で使えるようになる。			ワークブック 小 テスト②			
3	敬語の練習問題 【到達目標】さまざまなケースを練習して社会人としてふさわしい言葉遣いができるようになる。			ワークブック 小 テスト③			
4	電話応対のマナーと配慮するポイント。 【到達目標】職場での電話応対がスムーズにできるよう基本的な流れを理解する。			ワークブック 小 テスト④			
5	電話の受け方 【到達目標】さまざまなケースで練習し、会話の流れや言葉づかいを学び、読みやすいメモが書けるようになる。			ワークブック 小 テスト⑤			
6	電話のかけ方 【到達目標】さまざまなケースで練習し、電話を通して言いたいことが適切に言えるようになる。			ワークブック 小 テスト⑦			
7	敬語・電話の受け方の総復習						
	学科試験						
到達目標	ビジネス会話、電話応対の知識とスキルをワークブックをまとめながら覚え、実践できる。同僚、上司、お客様との会話や電話応対がストレスなくスムーズにできる。						
評価方法	各期筆記試験（80%）、リアクションペーパー・小テスト（20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお授業に参加していなかった学生は評価点に影響する。ワークブックの提出により参加していたかどうかチェックする。						
テキスト	ビジネスマナーワークブック						

学科	理容科	担当教員	杉崎				
科目名	表現技術（国語と文章）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義・演習（ワークブック）	必修・選択の別	必須	授業時間（単位）	15		
教育目標・ねらい	企業の組織や役職、社内、社外文書やメールの書き方を通して、ビジネス実務を身につける。新聞記事のトピックを説明し時事用語、ビジネス関連常識を増やす。						
授業回	学習内容			備 考			
1	PCの活用方法と組織図作成 【到達目標】PCと周辺機器について理解する。企業の組織図を作成して役職名や責任を知る。			ワークブック 小テスト①-1			
2	ビジネス文書の受発信の流れと、表記法について 【到達目標】表記法に則った数字の書き方でビジネス文書が作成できる。			ワークブック 小テスト①			
3	商取引上の文書の種類について 【到達目標】稟議書など帳票と印鑑、デジタル化される文書の活用ができる。			ワークブック 小テスト②			
4	社内、社外文書について 【到達目標】相違点と注意ポイントをまとめ、相手に合わせた表現で文書が書ける。			ワークブック 小テスト③			
5	文書構成のまとめと社交文書について 【到達目標】さまざまな社交文書の書き方と日本人ならではの表現ができる。			ワークブック 小テスト④			
6	グラフ・メールの作成について 【到達目標】エクセルで適切なグラフが作成できる。ビジネスメールが書ける。			ワークブック 小テスト⑤			
7	総復習						
	学科試験・試験返却						
到達目標	ビジネス文書の取り扱い、社内、社外、メールのが作成できる。						
評価方法	各期筆記試験（80%）、リアクションペーパー・小テスト（20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお授業に参加していなかった学生は評価点に影響する。ワークブックの提出により参加していたかどうかチェックする。						
テキスト	ビジネスマナーワークブック						

学科	理容科	担当教員	中山・古莊		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15
教育目標・ねらい	社会人・職業人として、組織の中で自分が振る舞うビジネスマナーを正しく理解し行動変容を行う 加えて、自身の課題に向き合う課題発見能力や問題解決能力を養い、 <u>自律した思考と行動の実践</u> 。				
授業回					備 考
1	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー（復習） 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。				ビジネス マナーテキスト p 51~54
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い（復習） 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】『品性』のある身のこなしを学び、実践する。				ビジネス マナーテキスト p 10~15
3	LESSON3 言葉遣い①「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト p 16~24
4	LESSON3 言葉遣い②「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト p 16~24
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ
6	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ
7	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				プレゼンテーション
8	クラス目標・個人目標振り返り				クラスミーティング
到達目標	社会人として自分の立ち位置や直面する状況を理解し、適切な対応をとることができる。 このことにより組織の一員として認められるようになる。				
評価方法	個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト				

学科	理容科	担当教員	中山・古荘						
科目名	ビジネスマインド（就職指導）	学 年	2	実施時期	前期				
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30				
教育目標・ ねらい	理容師としてのキャリアを早期に考える事で学ぶ目的が明確化し、自身の希望サロンへの就職というゴールに向けて計画を立て行動していくことを学ぶ								
授業回	学習内容				備 考				
1～7	〈サロン説明会〉 様々な業態の理容サロンを招き、各サロンの特徴を知る。このことを通して理容サロンの幅広い業態ならびに理容業界の理解を深める。								
8～15	〈就職指導〉 ・履歴書の書き方 ・就職内定までの計画の立案と実行と修正 ・内定のお礼状の書き方								
到達目標	理容師としてのキャリアプランから逆算した就職活動(サロン見学、体験入店)を行い、就職先 サロンを確定することができる								
評価方法	課題提出のサロンレポートにて評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。								
テキスト	「サロンレポート1・2」								

学科	理容科	担当教員	立花				
科目名	高度総合理容技術理論（毛髪化学）	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	演習・実習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	現場で必要な知識と技術を実習を通して学ぶ						
授業回	学習内容			備 考			
1	髪の生える仕組みを理解 頭皮所見の仕方 ハゲ診断			3コマ			
2	ウェーブ理論と実習			4コマ			
3	カラー理論 ブリーチ実習			4コマ			
4	カラー実秋 アイモデルでお互いを染める			4コマ			
到達目標	頭皮所見からカラー技術を習得する						
評価方法	医薬部外品を理解し、安全に取り扱えるかを確認する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える						

学科	理容科	担当教員	鈴木				
科目名	高度総合理容技術実習 (香粧品の製法)	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6		
教育目標・ ねらい	理容師としての基礎知識（香粧品化学と連動）の集積の為、各製剤の特徴や作用の仕組みや処方の構成を理解する事を目的とする。						
授業回	学習内容			備 考			
1	①基礎香粧品に関する講義 ②化粧水・洗顔フォームの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）						
2	①シャンプーについてのステップアップ講義 ②洗剤の違いによる性能比較のシャンプー試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）						
到達目標	①各香粧品の内容物の成り立ちや使用目的を把握し説明可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③各製剤の配合物の種類や量による性能の差異を香粧品化学の講義と連動し説明可能にする。						
評価方法	・各期実験レポート（80点満点）、及び筆記小テスト（20点満点）で評価する。なお所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験する事ができない。						
テキスト	香粧品化学教科書 授業毎にプリント（処方）配布						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は35年以上の化粧品製造会社の技術職勤務経験を踏まえ、実験を主体に、サロン現場で必要となる化学知識の習得を目的とした授業を行う						

学科	理容科		担当教員	古莊・中山						
科目名	高度総合理容技術実習		学 年	2	実施時期 前期・後期					
授業形態	実習		必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位) 174					
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。									
授業回	学習内容				備 考					
1~51	美翔祭	ヘアショーの企画立案・モデルカルテの作成・カルテを元にヘアメイクの技法を修得し、舞台演習に沿った、表現方法（ウォーキング・ポージング）を行う。 <b>【到達目標】</b> ヘアショーを通して学生自ら考え、表現技術を磨くことで技術向上・複数人で関わることの大切さ・難しさを理解する。				102				
52~64	匠すと	髪の毛を自由に表現するために必要なカッティング技術とプローセット技術等を応用し、クリエイティブなヘアスタイルを作成するための技術を習得する <b>【到達目標】</b> 今まで学んできた基礎技術を応用し、テーマに合わせて作品を制作することができる				26				
65~87	実務実習	理容サロンのスタッフとして、アシスタント業務を遂行し、理容師としての職業観を深めていく <b>【到達目標】</b> 今後、サロンで活躍する為に必要な知識や技術、人間力などの課題を明確にし、能力向上に向けて計画を立てられる				46				
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにする技術を習得する。									
評価方法	提出課題及び作品制作により評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。									
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）									
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う									